



なっとくんの

なるほどなっとくニュース



Community Museum「地域の宝・学校の宝」学校を中心とした地域の教育的環境の活用をめざして

※なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。↑



す え き もとやまはんとう 須恵器と本山半島

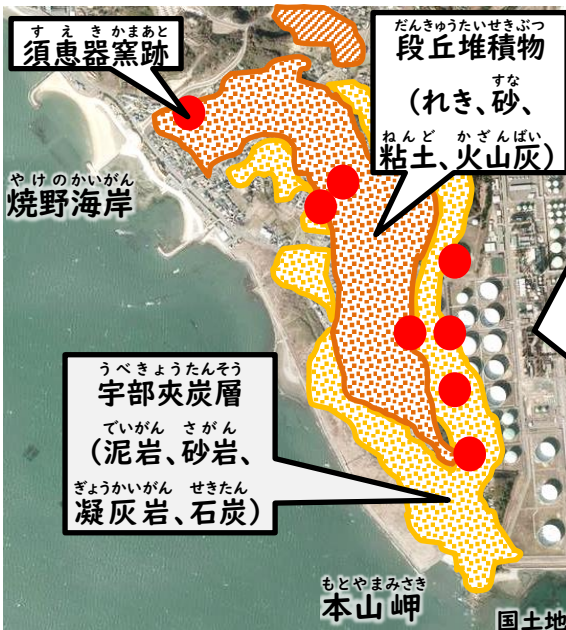
山陽小野田市



古墳時代(3~7世紀)に、朝鮮半島から様々な技術をもった人々が移住し、多くの技術や文化が日本に伝わりました。その1つが須恵器です。それまでの日本では、縄文土器、弥生土器という窯を使わずに焼く土器が使われていました。



ど き 名 土器名	じょうもん ど き 縄文土器	やよい ど き 弥生土器	す え き 須恵器
つく かた 作り方	ひも状にした粘土を巻いて作る。		「ろくろ」という回転する台に粘土をのせて回しながら作る。
や かた 焼き方	薪を並べた上に土器をのせて焼く「野焼き」。	土器をわらなどで覆い、その上を粘土で塗って焼く「覆い焼き」。焼く温度が一定に保たれるため、ムラなく焼くことができた。	斜面を利用した穴窯で1000℃以上の高温で焼く。焼きあがる直前に窯の穴をふさぎ、酸素を断つことで色は青灰色になり、固く焼き上げることができた。



山陽小野田市の本山半島周辺では、いくつかの須恵器窯跡が確認されています。その要因として、次の点が挙げられます。

- 宇部夾炭層、段丘堆積物が分布しており、風化の進んだよい粘土を産出すること
- 窯をつくるのに適した丘陵地があり、燃料となる松材も豊富で、海運に便利であること

レッツチャレンジ!

このように地の利を生かした産業が各地で育まれてきました。自分が住む地域にはどのような産業があるのか調べてみよう。